



海外の市場スケジュールと

FXのアノマリー

アノマリーとは“異常”という意味で、法則や理論に照らし合わせると、説明できない偏りが起こっている状態のことを言います。

為替取引には世界中のトレーダーが関与しているため、日本が祝日で市場がお休みになったり、連休で長期のポジションを手じまいするなどという動きが、海外でも同様に起こります。

祝日などの休暇以外にも、株や経済の動向なども複雑に絡み、それらが為替相場に影響してくるため、気にしすぎる必要はありませんが、こういった影響も受けているということを、豆知識程度に知っておくと少し面白いかもしれません。

月	経済スケジュールと 海外の祝日	経済の動向とアノマリー
1月	1日ニューイヤーズデイ	<u>1月効果</u> ドル円で1月の相場の方向感とその年のトレンドになりやすい。 →1月の月足が陽線なら上昇、陰線なら下降トレンドになりやすい。 <hr/> この月の相場が、その年の年間の高値又は安値となることが多い。
2月		<u>節分天井・彼岸底</u> 年明けから上昇してきた相場が2月の頭に天井になり、3月の初めまで下げやすくなる。 (1月の反動で戻りが入りやすい) ドル円では米国債の利払いがあり、利息をドルから円に交換する動きや、ヘッジファンドの決算などにより、円高(ドル円下落)になりやすい。

<p>3月</p>	<p>日本企業は決算期 → 外貨を保有する日本企業が決算に向けて一斉に両替を行うため、円高となりやすい。</p> <p>(英)最終日曜日 (米)第2日曜日 サマータイム開始</p> <p>※イギリスのサマータイムは2021年に廃止予定</p>
<p>4月</p>	<p>(英)グッドフライデー :春分後、最初の満月から1番近い日曜日がイースター。その2日前の金曜日。</p> <p>(英)(米)イースターマンデー :イースターの翌日</p> <p>3月に決算のために外貨を円に交換したため、外貨投資に新規の資金が流れてくるため、為替が大きく動く月とも言われる。</p> <p>ドル円は決算が終了した影響で、円安になりやすい。</p>
<p>5月</p>	<p>SELL IN MAY “Sell in May and go away. Don't come back until St Leger day”の略で、「5月には全て売って、9月の第2土曜日まで相場に戻ってくるな」という世界的に有名な格言。</p> <p>夏休みに備えたポジション整理など、マーケット全体で売りムード。利益確定売りなども増えたり、株安の影響で円高になりやすく、大きな方向転換になりやすい季節。</p> <p>2月と同様に米国債の利払いが行われ、円高になりやすい。</p>
<p>6月</p>	<p>夏休みを迎えるファンドが多くなる。 → 市場参加者が大幅に減ってしまう時期と言われている。</p> <p>5月と同じく、相場の転換点となりやすく、その年の最高値・最安値をつける可能性が高い。</p>
<p>7月</p>	<p>サマーラリー → アメリカでは夏のボーナスで株を買いだめすると言われており、7月～9月までは株価が上昇しやすい時期。</p> <p>アメリカの株価が上昇しやすい=ドル円では円安になりやすいと言われている。</p>

8月	<p style="text-align: center;"><u>夏枯れ相場</u></p> <p>日本ではお盆を控え、売り相場となりやすく、円高になりやすい</p> <p>米国債の利払いの月でもあるため、円高方向に圧力がかかる。</p> <hr/> <p>7月・8月は全体的に円高に動きやすい時期ですが、変動幅が小さく、大きな値幅を狙うのは難しい時期と言われている。</p>
9月	<p>ファンドの夏休みが終わる。市場参加者が増えることから、大きな値動きがおりやすくなる。</p> <p>(日)中間決算 → 3月ほどの影響はないものの、ドル円は円高になりやすい。</p> <hr/> <p>9月は大相場を形成しやすく、9月で発生したトレンドは、10～11月まで続くと言われている。</p>
10月	<p>最終日曜日(英)サマータイム終了</p> <p style="text-align: center;"><u>(米)10月効果</u></p> <p>アメリカでは10月は株価が安値をつけやすい。有名な歴史的な大暴落は10月に起こることが多い。</p> <p>アメリカでこういった株安になりやすいことから、ドル円では円高になりやすい月と言われている。</p>
11月	<p>第1日曜日(米)サマータイム終了</p> <p>第4木曜日(米)感謝祭</p> <p>アメリカでは休暇前の調整が入りやすい時期で、新しい方向への値動きがおりやすいと言われている。</p> <p>ドル円は米国債の利払いによる円高への圧力が起こる時期でもある。</p>
12月	<p>欧米企業は決算期 → 円安になりやすい。</p> <p>25日(英)(米)クリスマス</p> <p>欧米ではクリスマスが近づくと市場参加者が大きく減ってしまい、年明けまでは取引量が少なく、大きな値動きが起こりにくい。</p>

普段見ているチャートは、こういった世界中の経済の影響を受けて変動しております。しかし、“必ずこうなる”というものではないところがトレードの厄介な部分ですので、この内容は雑学程度に、あくまでダウ理論をもとに、ルール通りのトレードを徹底していきましょう。